

◇ 北海道留寿都高等学校 ◇

1 本校概要

本校の設置されている留寿都村は、北海道の南西部に位置し、札幌市と新千歳空港から車で約90分の距離にあり、農業と観光を基幹産業としている。また、海拔高度300mにあることで夏は涼しく、自然環境にたいへん恵まれたことで、おいしい農産物を生産している。本校は、昭和26年北海道倶知安高等学校留寿都分校として設立



し、令和3年度に創立70周年を迎える。全国で唯一の農業福祉科〔定時制課程昼間〕の公立高等学校として、農業と福祉の実践的な実習を重視した教育活動に取り組んでいる。

2 特色ある教育活動

充実した校外学習は、2年生で10日間、3年生で15日間、4年生では、10ヶ月間の国内外農業実習（国際農業コース）あるいは、50日間の福祉施設実習（農業福祉コース）



が実施され、専門的な知識と技術を図るとともに、正しい勤労観・職業観を涵養する機会としている。また、資格取得学習の推進事業として、食品衛生責任者や介護職員初任者研修修了認定などを取得させている。特に介護福祉師の国家資格は、14年連続100%合格を果たしている。なお、近年は実用英語技能検定や日本情報処理技能検定において、上級位を取得する生徒も見られる。加えて保育所や義務教育学校、大学と連携して、生徒が先生役となった授業を展開し、主体的に学習に取り組む態度を育成している。

3 PTAの活動

本校のPTAは、会長、副会長4名、監事2名をはじめとした学年委員が、事業計画に沿って各種活動を行っている。学校祭においては、会員から有志を募り、昼食を調理・提供して、毎年好評を得ている。また、PTA研修として、農業高校食彩フェアの視察と昼食会を実施している。PTA会長をはじめ役員は、高P連全道大会や支部の総会、各事業に積極的に参加をし、役員相互の交流や情報交換を行い、生徒の健全育成に取り組んでいる。

